

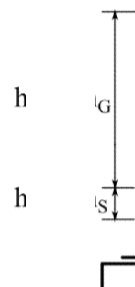
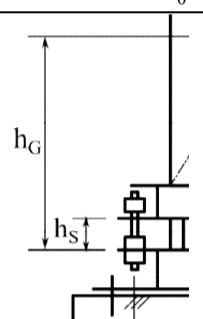
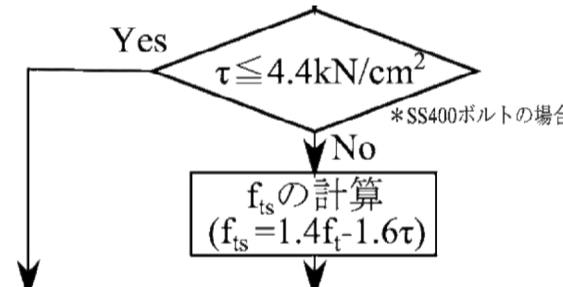
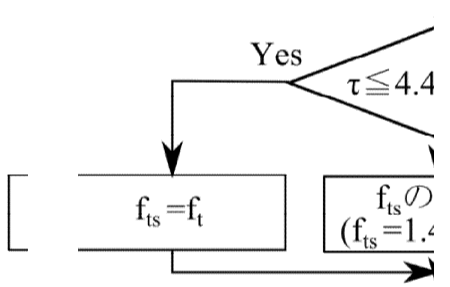
「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
(第 1 版 1 刷・2 刷用) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。

最新の正誤表については、(一財) 日本建築センターホームページ (<http://www.bcj.or.jp/>) の書籍販売ページでご確認下さい。

H28/3/2

○：正誤あり ー：修正済み

該当箇所		誤	正	1 刷	2 刷
頁	行			H26. 9. 25	H26. 11. 25
7	上から 7 行目	各階の応答加速度値	各階床の応答加速度値	○	○
7	上から 11 行目	…がある場合の予備計算による…	…がある場合は解析結果による…	○	○
10	上から 7 行目	設計用水平震度 $K_S = \dots$	設計用水平震度 $K_H = \dots$	○	○
23	下から 2 行目	壁平行	長辺	○	○
24	③頂部支持材のアンカーボルトに作用する力	引抜き力 $R_b = \frac{T \cdot \sin \theta}{n_0}$ せん断力 $Q_b = \frac{T \cdot \cos \theta}{n_0}$	X 方向 引抜き力 $R_b = \frac{N}{n_0}$ (解 3.3-3d) Y 方向 引抜き力 $R_b = \frac{T \cdot \sin \theta}{n_0}$ 、 せん断力 $Q_b = \frac{T \cdot \cos \theta}{n_0}$ (解 3.3-3e)	○	○
27	指針図 3.4-3			○	○
30	下から 9 行目	(指針式 3.2-1)	(指針式 3.2-1a)	○	○
32	上から 15 行目	$= \frac{F_H \cdot h_G + (W - F_V) \cdot \ell_G}{n_t \cdot \ell}$	$= \frac{F_H \cdot h_G - (W - F_V) \cdot \ell_G}{n_t \cdot \ell}$	○	○
39	解図 3.4-7	図中の『容応』の文字を削除		○	ー
46	下から 1 行目	指針表 3.3-2 上面つなぎ材に準じて計算する。	計算例 9 に準じて計算する。	○	○
53	上から 11 行目	f_{ts} の検討を省略している。	$f_{ts} = f_t$ としている。	○	○
53	解図 4.2-1			○	○
62	下から 11 行目	W：設備機器の重量 (cm)	W：設備機器の重量 (kN)	○	ー
62	下から 10 行目	W _F ：基礎重量 (cm)	W _F ：基礎重量 (kN)	○	ー
62	下から 8 行目	比重量は普通コンクリートで $23 \times 10^{-6} \text{kN/m}^3$	比重量は普通コンクリートで $23 \times 10^{-6} \text{kN/cm}^3$	○	ー
64	上から 12 行目	$A \cdot \underline{f}_t \geq R_b$	$A \cdot \underline{f}_t \geq R_b$	○	○
64	上から 22 行目	F _C が不明な場合は $f_a = \dots$	F _C が不明な場合は F _{C18} とし $f_a = \dots$	○	○
75	上から 20 行目	配管の有効質量は全質量の約 0.6 倍	配管の有効重量は全重量の約 0.6 倍	○	○
75	上から 24 行目	配管全質量	配管全重量	○	○
171	上から 22 行目	④ 取付けボルトは JIS による中ボルトとする。	④ 取付けボルトは中ボルトとする (中ボルト (SS400) は JIS による仕上げボルトの強度区分 4.6 p.233 参照)。	○	○
171	下から 5 行目	本例では簡便な (ii) の方法を…	本例では簡便な②の方法を…	○	ー
176	上から 6 行目	=8,530 kN	=8,530 kN・cm	○	○
177	上から 1 行目	\underline{f}_c	\underline{f}_c	○	○
177	下から 9 行目	埋込式 J 形 (M6)	埋込式 J 形 (M16)	○	○
179	上から 2 行目	アンカーボルトの選定	アンカーボルトの選定 ① 「付表 1」より 設置工法……埋込式 J 形 (M20)、堅固な基礎とする 埋込長さ L=20cm、c=15cm、h=45cm $T_a = 6\pi \times L^2 \times p (=0.01) = 75.4 \text{kN} > R_b$	○	○
179	上から 3 行目	解図 4.2-3 より	② 解図 4.2-3 より	○	○
180	下から 1 行目	=254kN > 220kN OK	=254kN > 222kN OK	○	○
181	上から 3 行目	=197kN	=197kN (解式 3.5-3)	○	○
181	上から 4 行目	=61.5kN	=61.5kN (解式 3.5-6)	○	○

該当箇所		誤	正	1刷 H26.9.25	2刷 H26.11.25
頁	行				
183	下から3行目	アンカーボルトの選定	アンカーボルトの選定 ① 「付表1」より 設置工法……埋込式J形(M10)、堅固な基礎とする 埋込長さ L=9cm (引抜き力を生じないのではありません断力で選定)	○	○
183	下から2行目	解図4.2-3 より	② 解図4.2-3 より	○	○
184	上から12行目	=18,600	=18,600 kN・cm	○	○
186	計算例7 図面寸法			○	—
188	上から7行目	径は16本-M20とする。	径は14本-M20とする。	○	○
189	下から6行目	$P = F_H/4 = 4.40/4 = 1.10\text{kN}$	$P = F_H/4 = 4.40/4 = 1.10\text{kN}$ $l_1 = 69 + 69 = 138\text{cm}$	○	○
189	下から4行目	$T_2 = \frac{M}{2l} + \frac{(M + F_V)(l - l_G)}{2l}$	$T_2 = \frac{M}{2l_1} + \frac{(W + F_V)(l_1 - l_G)}{2l_1}$	○	○
190	上から3行目	$N_T' = 1.51 + 1.10 = 2.61\text{kN}$	$N_T' = T_2 + T_1 = 1.51 + 1.10 = 2.61\text{kN}$	○	○
190	上から9行目	⊙ B材	⊙ B材 (短い部材なので、座屈を無視して引張り力に対して検討している。)	○	○
190	下から7行目	=3.74kN	=3.74kN (解式3.5-14)	○	○
190	下から3行目	=2.57kN	=2.57kN (解式3.5-5)	○	○
192	上から9行目	熱交換機	熱交換器	○	○
192	上から10行目	熱交換機	熱交換器	○	○
193	上から10行目	(但し p=1 とした。)	(但し p=0.01 とした。)	○	○
194	上から11行目	(但し p=1 とした。)	(但し p=0.01 とした。)	○	○
195	上から11行目	埋込長さ L=60cm	埋込長さ L=6cm	○	○
195	下から1行目	$h_G = 158\text{cm}$	$h_G = 148\text{cm}$	○	○
196	上から1行目	$l_G = 90\text{cm}$ (長辺)	$l_G = 86\text{cm}$ (長辺)	○	○
196	上から5行目	=1.22 kN/本	=0.95 kN/本	○	○
199	下から9行目	$P = Q_0 + \frac{F_H \cdot h_G}{2l} = 1.44 + \frac{4.95 \times 32}{2 \times 45} = 1.76\text{kN}$	$P = Q_0 + \frac{F_H \cdot h_G}{2l} = 1.44 + \frac{4.95 \times 32}{2 \times 45} = 3.20\text{kN}$ $\theta = 40^\circ$	○	○
199	下から8行目	A材の引張り力 = $P \cdot \frac{1}{\tan \theta} + \frac{F_H}{2} = 4.24\text{kN}$	A材の引張り力 = $P \cdot \frac{1}{\tan \theta} + \frac{F_H}{2} = 6.29\text{kN}$	○	○
199	下から7行目	B材の圧縮力 = $P \cdot \frac{1}{\sin \theta} = 2.49\text{kN}$	B材の圧縮力 = $P \cdot \frac{1}{\sin \theta} = 4.98\text{kN}$	○	○
199	下から5行目	引張り力 $N_T' = 4.24\text{kN}$	引張り力 $N_T' = 6.29\text{kN}$	○	○
200	上から1行目	$= \frac{4.24}{3.60 \times 23.5} + \dots = 0.05 + 0.26 = 0.31 < 1.0$	$= \frac{6.29}{3.60 \times 23.5} + \dots = 0.07 + 0.26 = 0.33 < 1.0$	○	○
200	上から3行目	$N_C' = 5.97\text{kN}$	$N_C' = 4.98\text{kN}$	○	○
200	上から8行目	=82.9kN > 5.97kN OK	=82.9kN > 4.98kN OK	○	○
200	上から10行目	=0.96kN/本	=0.96kN/本 (解式3.5-11)	○	○
200	下から12行目	<10.2kN/cm ² OK	<10.1kN/cm ² OK	○	○
203	計算例17の図	左側の図において、寸法『290』の左側の引き出し線位置を、アンカー位置から重心位置に修正		○	○
205	計算例18の図	左側の図において、寸法『290』の左側の引き出し線位置を、アンカー位置から重心位置に修正		○	○
205	上から4行目	(2) 移動防止型ストッパ	(2) 移動防止型ストッパ (長辺方向)	○	○
205	上から5行目	($K_H = 1.5$ の場合)	($K_H = 1.0$ の場合)	○	○
205	上から6行目	$K_H = 1.5$	$K_H = 1.0$	○	○
205	上から7行目	$K_V = 0.75$	$K_V = 0.5$	○	○
205	上から10行目	$l_G = 29\text{cm}$ (長辺)	$l_G = 55\text{cm}$ (長辺)	○	○
205	上から11行目	$l = 46\text{cm}$	$l = 120\text{cm}$ (長辺)	○	○

該当箇所		誤	正	1刷	2刷
頁	行			H26.9.25	H26.11.25
205	上から17行目	(誤) ストッパの板厚 $t \geq \sqrt{\frac{6K_H \cdot W \cdot \ell_2}{f_b \cdot (\ell_1 - m \cdot d_0) \cdot N_s}} = 0.71 \text{ cm}$ (正) $T_0 = \frac{\{K_H \cdot h_G - \ell_G(1 - K_V)\} \cdot W}{\ell} = -0.44 \text{ kN}$ ストッパの板厚 $t \geq \sqrt{\frac{6K_H \cdot W \cdot \ell_2}{f_b \cdot (\ell_1 - m \cdot d_0) \cdot N_s}} = 0.58 \text{ cm}$	(指針式 3.4-1a) (解式 3.4-1) (指針式 3.4-1a)	○	○
205	下から8行目	0.71cm → 0.8cm以上の板厚とする。	0.58cm以上の板厚とする。	○	○
205	下から7行目	アンカーボルト 転倒モーメントに対し不利な長辺方向について検討する。	アンカーボルト	○	○
205	下から6行目	$R_b = \frac{\ell_2 \cdot K_H \cdot W}{\ell_5 \cdot m \cdot N_s} = 3.36 \text{ kN/本}$	$R_b = \frac{\ell_2 \cdot K_H \cdot W}{\ell_5 \cdot m \cdot N_s} = 2.24 \text{ kN/本}$	○	○
205	下から5行目	$Q = \frac{K_H \cdot W}{m \cdot N_s} = 2.1 \text{ kN/本}$	$Q = \frac{K_H \cdot W}{m \cdot N_s} = 1.4 \text{ kN/本}$	○	○
206	上から4行目	(3) 移動・転倒防止型ストッパ	(3) 移動・転倒防止型ストッパ (短辺方向)	○	○
206	上から17行目	$T_0 = \dots = 2.58 \text{ kN}$ (長辺)	$T_0 = \dots = 2.58 \text{ kN}$	○	○
206	上から21行目	アンカーボルト 転倒モーメントに対し不利な長辺方向について検討する。	アンカーボルト	○	○
206	上から22行目	引抜き力 $R_b = \dots = 1.29 \text{ kN/本}$ (指針式 3.4-2a)	引抜き力 $R_b = \dots = 1.29 \text{ kN/本}$ (指針式 3.4-2c)	○	○
207	下から3行目	設備用水平震度	設計用水平震度	○	○
208	上から7行目	設計用鉛直地震力 $F_V = 5.50 \text{ kN}$	設計用鉛直地震力 $F_V = 6.99 \text{ kN}$	○	○
220	上から6行目	$P_a = 221 \text{ N} = 0.22 \text{ kN/本} > R_b = 0.20 \text{ kN}$	$P_a = 221 \text{ N} = 0.22 \text{ kN/本} > R_b = 0.20 \text{ kN/本}$	○	○
228	付録図 3-4 のキャプション	付録図 3-4 水槽の有効重量比 (α_T)	付録図 3-4	○	○

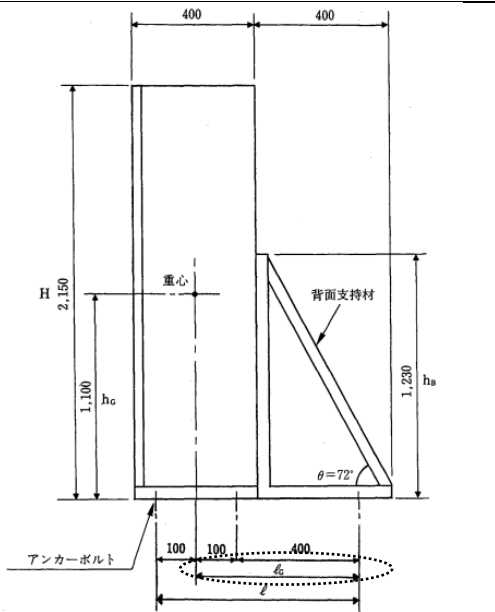
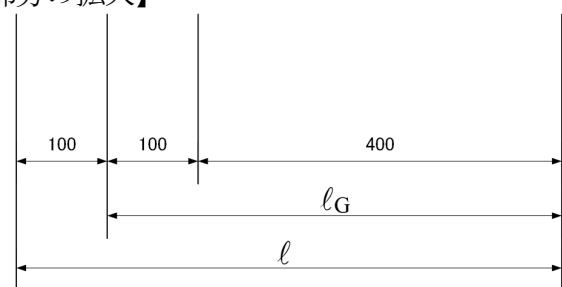
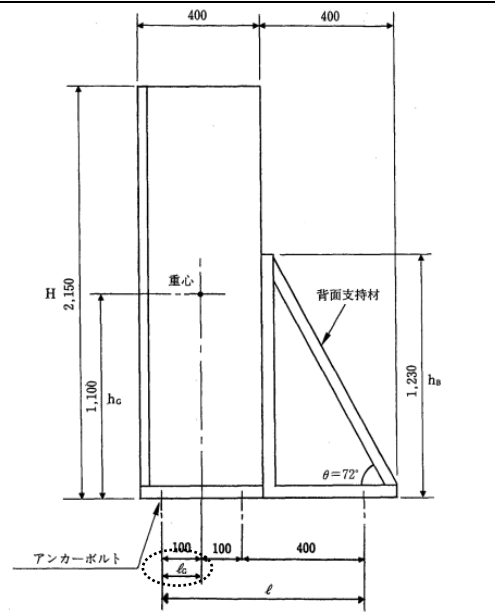
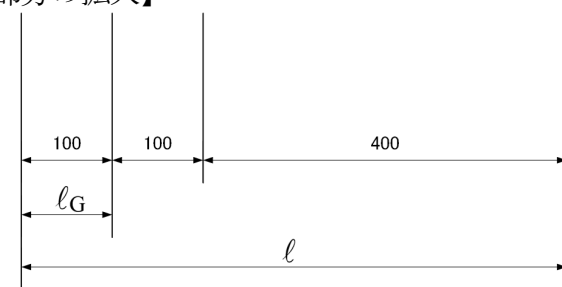
「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
(第 1 版 3 刷用) 正誤表

該当箇所		誤	正
頁	行		
24	③頂部支持材のアンカーボルトに作用する力	X方向 引抜き力 $R_b = N$ (3.3-3d)	X方向 引抜き力 $R_b = \frac{N}{n_0}$ (3.3-3d)
44	6行目	…せん断が作用していることに留意する。	…せん断が作用していることに留意する。ただし、柱下端が連結されている場合には両側柱を考慮できる。
71	下から10行目	…抑制するよう耐震支持を行う。	…抑制するよう、指針表 6.2-1 に示す耐震支持を行う。
	下から8行目	…抑制する耐震支持を行う。	…抑制する耐震支持を行う。ただし、電気配線・ケーブルラックの管軸方向については、指針表 6.2-1 による。
177	15行目	$F_H' = \frac{F_H}{n_2} = \frac{67.2}{4} = 16.8 \text{ kN}$	$F_H' = n \cdot Q = \frac{F_H}{n_3} = \frac{67.2}{4} = 16.8 \text{ kN}$ n_3 は、柱下端を連結しているので両側端を考慮して (2×2=4) としている。
181	4行目	$F_H' = \frac{F_H}{6} = \frac{369}{6} = 61.5 \text{ kN}$	$F_H' = n \cdot Q = \frac{F_H}{n_3} = \frac{369}{4} = 92.3 \text{ kN}$ n_3 は、柱下端を連結しているので両側端を考慮して (2×2=4) としている。
	9行目	② 解図 4.2-3 より	② 各柱にアンカーボルト 4 本として $R_b = 49.3 \text{ kN}$ 、 $Q = 23.1 \text{ kN}$ 、解図 4.2-3 より
	10行目	径は 24 本—M20	径は 24 本—M22
210	18行目	$M_V' = P_V \cdot \underline{a} = \dots$	$M_V' = P_V \cdot \underline{a} = \dots$

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
 (第 1 版 1 刷・2 刷・3 刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。
 最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

H31/4/26

該当箇所		誤	正
頁	行など		
199	下から 2 行目	d:ボルト孔径 (M16 $\cdots\cdots$ 1.7cm)	d:ボルト孔径 (M8 $\cdots\cdots$ 0.9cm)
215	計算例 25 (1)設備機器緒元の図	 <p>【寸法部分の拡大】</p> 	 <p>【寸法部分の拡大】</p> 

該当箇所		誤	正
頁	行など		
216	上から 9~10 行目	アンカーボルトの距離 $l_{G1}=10\text{cm}$ 盤と背面支持材とのボルトスパン $l_{G2}=40\text{cm}$	アンカーボルトの距離 $l_G=10\text{cm}$
216	指針式3.2-1a の2行目	$= \frac{6.00 \times 110 - (3.00 - 3.00) \times 50}{60 \times 2} = 5.50\text{kN}$	$= \frac{6.00 \times 110 - (3.00 - 3.00) \times 10}{60 \times 2} = 5.50\text{kN}$

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
 (第 1 版 1 刷・2 刷・3 刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。

最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

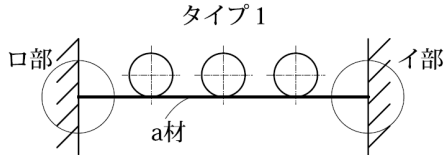
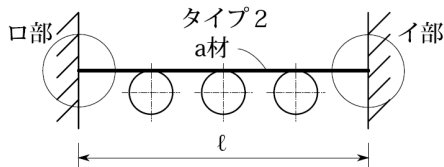
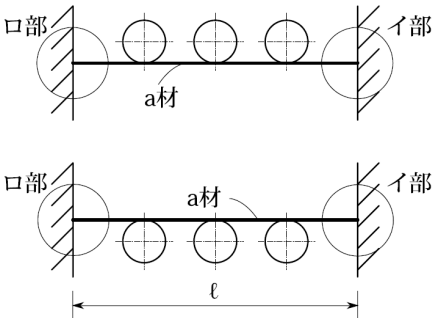
R1/7/24

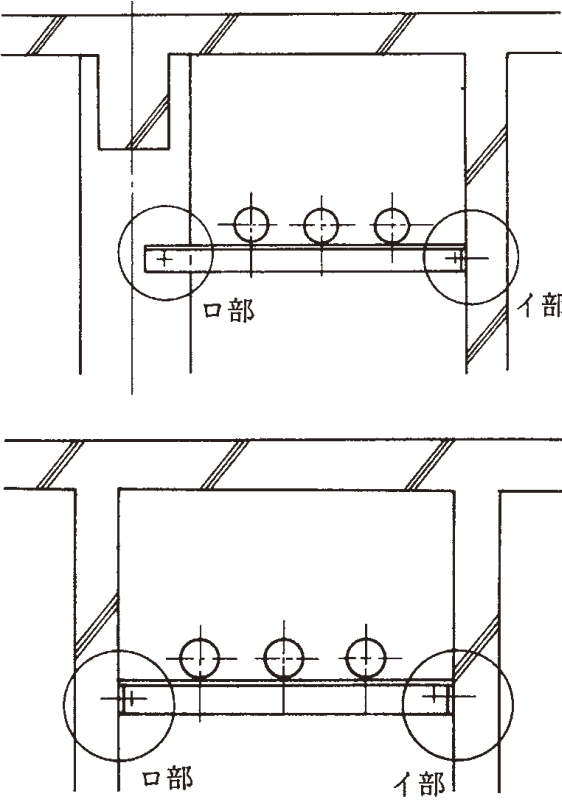
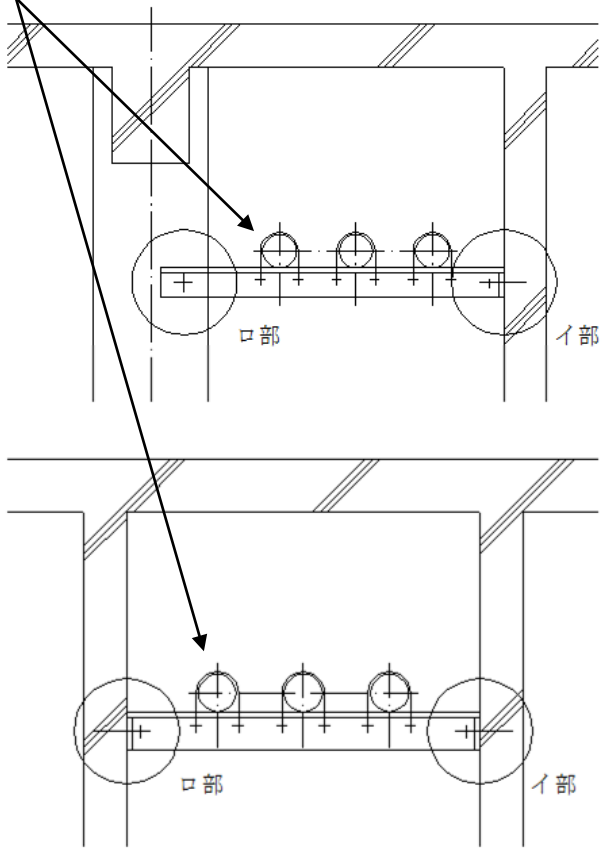
該当箇所		誤						正					
頁	行・図表	誤						正					
130	附表 2.1-6 (No. 6 つづき) 配管重量 P 20 支持寸法 l 2000 h 500 の行 及び 1000 の行の、 部材仕様 a 材の列	[-100× <u>75</u> ×5×7.5						[-100× <u>50</u> ×5×7.5					
		20	1500	1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12	M16	20	1500	1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12	M16
				2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM16	2-M16			2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM16	2-M16
				2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	3-CM12	2-M16			2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	3-CM12	2-M16
		2000	500	[-100 × 75 × 5 × 7.5	2-CM10	M16	2000	500	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-CM10	M16		
				1000	[-100 × 75 × 5 × 7.5	2-CM10			M16	1000	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-CM10	M16
				1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-M16			M16	1500	[-125 × 65 × 6 × 8	2-M16	M16
				2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12			M16	2000	[-125 × 65 × 6 × 8	2-CM12	M16
				2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	2-CM16			2-M16	2500	[-150 × 75 × 6.5 × 10	2-CM16	2-M16
			500	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-M10	M16		500	[-100 × 50 × 5 × 7.5	2-M10	M16		

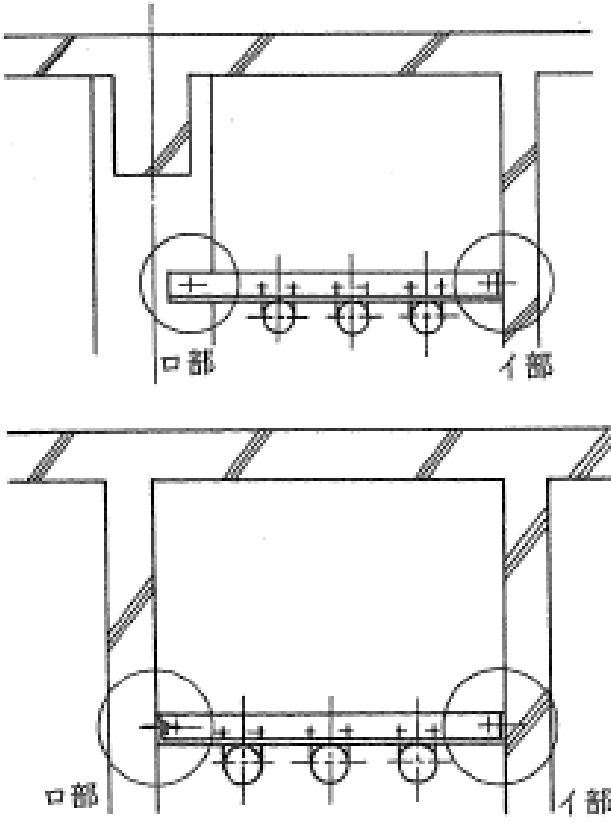
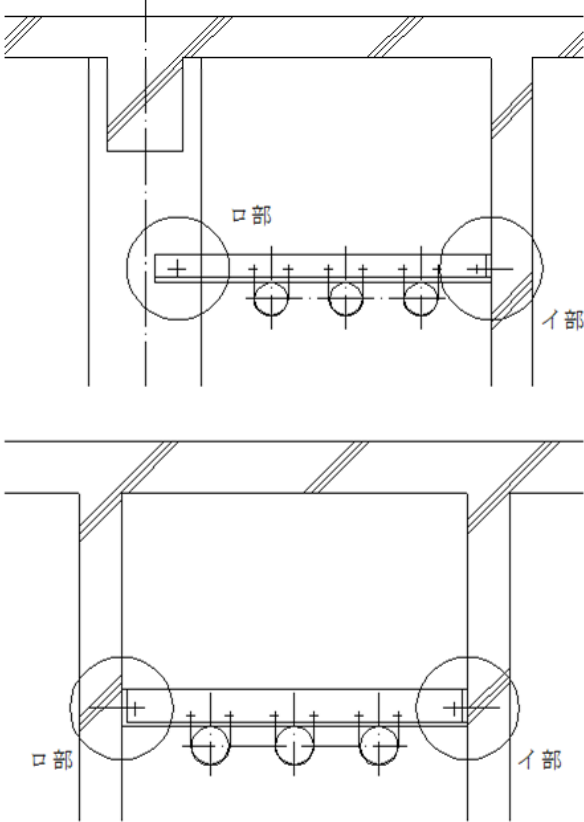
「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
(第 1 版 全刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。
最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R2/3/10

該当箇所		誤	正																																						
頁	行など																																								
10	21 行目	を用いて、設計用水平震度 K_s を計算すると、・・・	を用いて、設計用標準震度 K_s を計算すると、・・・																																						
49	指針表 4.1-1	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ボルトの種類</th> <th colspan="2">長期許容応力度(kN/cm²)</th> <th colspan="2">短期許容応力度(kN/cm²)</th> </tr> <tr> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボルト(SS400)</td> <td>11.7</td> <td>6.78</td> <td>17.6</td> <td>10.1</td> </tr> <tr> <td>ステンレスボルト(A2-50)</td> <td>10.5</td> <td>6.08</td> <td>15.8</td> <td>9.12</td> </tr> </tbody> </table>	ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)		短期許容応力度(kN/cm ²)		引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)	ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1	ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.08	15.8	9.12	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ボルトの種類</th> <th colspan="2">長期許容応力度(kN/cm²)</th> <th colspan="2">短期許容応力度(kN/cm²)</th> </tr> <tr> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> <th>引張(f_t)</th> <th>せん断(f_s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボルト(SS400)</td> <td>11.7</td> <td>6.78</td> <td>17.6</td> <td>10.1</td> </tr> <tr> <td>ステンレスボルト(A2-50)</td> <td>10.5</td> <td>6.06</td> <td>15.8</td> <td>9.09</td> </tr> </tbody> </table>	ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)		短期許容応力度(kN/cm ²)		引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)	ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1	ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.06	15.8	9.09
ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)			短期許容応力度(kN/cm ²)																																					
	引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)																																					
ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1																																					
ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.08	15.8	9.12																																					
ボルトの種類	長期許容応力度(kN/cm ²)		短期許容応力度(kN/cm ²)																																						
	引張(f_t)	せん断(f_s)	引張(f_t)	せん断(f_s)																																					
ボルト(SS400)	11.7	6.78	17.6	10.1																																					
ステンレスボルト(A2-50)	10.5	6.06	15.8	9.09																																					
52	11 行目	・・・ボルトの「ねじ谷径断面/軸断面積=0.75」・・・	・・・ボルトの有効断面積「ねじ谷径断面積/軸断面積=0.75」・・・																																						
125 136	左上の図	<p style="text-align: center;">タイプ 1</p>  <p style="text-align: center;">タイプ 2</p> 	<p>※「タイプ 1」「タイプ 2」の文字を削除</p> 																																						

該当箇所		誤	正
頁	行など		
149	付表 2.4-2 「全体架構図」の列 「タイプ1 配管を支持材上部に設置の場合」 の図	 <p>タイプ1 配管を支持材上部に設置の場合</p>	<p>※Uボルトを追加</p>  <p>※タイプ1を削除</p> <p>配管を支持材上部に設置の場合</p>

該当箇所		誤	正
頁	行など		
149	付表 2.4-2 「全体架構図」の列 「タイプ2 配管を支持材下部に設置の場合」 の図	 <p>タイプ2 配管を支持材下部に設置の場合</p>	 <p>配管を支持材下部に設置の場合</p> <p>※「タイプ2」を削除</p>
175	9行目	重心位置 $l_G=64\text{cm}$	(「重心位置 $l_G=64\text{cm}$ 」を削除)

「建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版」
 (第 1 版 全刷共通) 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正し、お詫び申し上げます。

最新の正誤表については、弊センターホームページの当該書籍紹介ページでご確認ください。

R2/6/24

該当箇所		誤		正									
頁	行など												
162	付表 2.6-2 配管重量 20 支持材寸法 500 の行	20	500	L-90 × 90 × 6	M12	E-70 × 40 × 5 × 7	M10	20	500	L-90 × 90 × 6	M12	E-75 × 40 × 5 × 7	M10
			1000	L-100 × 100 × 10	M12	[-100 × 50 × 5 × 7.5	M10		1000	L-100 × 100 × 10	M12	[-100 × 50 × 5 × 7.5	M10
			1500	L-130 × 130 × 9	M12	[-125 × 65 × 6 × 8	M10		1500	L-130 × 130 × 9	M12	[-125 × 65 × 6 × 8	M10
162	付表 2.6-2 配管重量 30 支持材寸法 500 の行	30	500	L-90 × 90 × 10	M16	[-75 × 40 × 40 × 5 × 7	M10	30	500	L-90 × 90 × 10	M16	[-75 × 40 × 5 × 7	M10
			1000	L-130 × 130 × 9	M16	[-125 × 65 × 6 × 8	M10		1000	L-130 × 130 × 9	M16	[-125 × 65 × 6 × 8	M10
			1500	L-130 × 130 × 15	M16	[-125 × 65 × 6 × 8	M10		1500	L-130 × 130 × 15	M16	[-125 × 65 × 6 × 8	M10
「× 40」を削除													
163	付表 2.6-3 配管重量 50 支持材寸法 2000 の行	50	1500	L-130 × 130 × 15	2-M16	H-100 × 100 × 6 × 8	M16	50	1500	L-130 × 130 × 15	2-M16	H-100 × 100 × 6 × 8	M16
			2000	L-150 × 150 × 7 × 10	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16		2000	H-150 × 150 × 7 × 10	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16
			2500	H-175 × 175 × 7.5 × 11	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16		2500	H-175 × 175 × 7.5 × 11	2-M16	H-125 × 125 × 6.5 × 9	M16